

おん きょう

遠慶



新潟教区報 第136号
 2023 (令和5) 年 12月15日発行

編集/浄土真宗本願寺派 「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会 広報部会
 〒940-2402
 新潟県長岡市与板町与板乙 4356 本願寺新潟別院内
 TEL : 0258-72-2120
 FAX : 0258-72-2536



本願寺新潟別院
御取越報恩講法要

本年も例年通り、六月二十五日の日中法要から二十七日の日中法要にかけて全七座で本願寺新潟別院御取越報恩講法要が営まれました。(写真右上)

今年五月に新型コロナウイルス感染症が第五類に移行となり、社会的にもコロナ禍の影響が少なくなってきた中で、コロナ前の報恩講に近い形で営まれました。

水岡賢士前輪番が導師の元、新潟教区内の各組から内陣出勤をしていただき、コロナ禍の影響で出勤できていなかった新潟楽風会も数年ぶりに出勤し、久々に雅楽が流れる中で法要がお勤まりになりました。

近年は新潟教区内の布教使に依頼をしてご法話をいただいておりますが、数年ぶりに県外の御講師さんをお招きし、福岡教区の紫藤常昭さんに、ご法話をいただきました。(写真左上)

また、お斎を再開し、法要出勤者と申込みいただいた参拝者にお斎をご用意いたしました。

二十六日の十六時半から行なっていた子ども報恩講も再開し、学校帰りや露店に来ていた多くの子どもたちが参加をして、別院に参拝をしていただきました。その後、腕輪念珠づくりやプラ板キーホルダーづくりなどを楽しんでいる姿が見られました。(写真右下、中央下)

別院の参道から与板町内にかけては昨年から再開している露店が今年も多く並び、与板町内は大きくにぎわいました。別院を参拝される方も多く、向拝には参拝の順番を待つ列もできていました。

従来の形に戻りつつある新潟別院報恩講に来年も多くのご参拝をお待ちしております。

法話 私の宗教になっているか

本願寺派布教使 巻組安養寺住職 堂谷 弘頌

阿弥陀様は、「全ての命をお念仏申す者に育て上げて、必ず浄土に生まれさせ仏とさせる」とおっしゃってくださいます。その阿弥陀様のお心を聞かせて頂いた私の人生は、「仏様に成るといふ命の目標」が与えられた人生となります。

それは日々を過ごしていく中で、私の価値観を中心に物事を考えるのではなく、「仏様の智慧と慈悲の心を中心に物事を考え行動していく」事であると味わせて頂きます。そして、その生き方を実践していくのが「浄土真宗を私の宗教としていく」事なのだと思います。

さて、そうしました時にお互い様に【浄土真宗が私の宗教となっている】でしょうか。その事を考えるきっかけになった、ある先輩のお話を御紹介いたします。先輩がある地域に布教のご縁を賜り、お寺までの道中にタクシーの運転手の方と会話をされる中で感じた事であるそうです。

先輩が「何々寺というお寺さんまでお願いします」と伝えると、運転手の方が「そこのお寺は浄土真宗のお寺ですよ。家も浄土真宗なのですよ」と答えられたそうです。その言葉を聞かれた先輩は、運転手の方が「家も浄土真宗なのですよ」とおっしゃられた言葉に引っかかりを覚えたそうです。

そこで先輩は、運転手の方に「では運転手さんは何宗なのですか」と訪ねられたそうです。つまり、先輩はお家の宗教としてではなく、運転手の方御自身が浄土真宗を自分の宗教とされているのかを訪ねたかったわけです。すると、運転手の方はその質問の意図を理解されたようです。少し沈黙されてから、最後には「無宗教です」と答えられたそうです。

その話を通して、先輩が「浄土真宗が私達一人一人の宗教になって

いない現実がある」という事をおっしゃられました。（僧侶も門徒もお互い様に）

皆様は「あなたは何宗のですか」と訪ねられた時、どのようにお答えになりますか。「家は先祖代々浄土真宗です」とお家の宗教として答えられますか。または、「私のお寺は浄土真宗です」とお寺の宗旨として答えられますか。

そうではなく、お互い様に胸を張って「私は浄土真宗です」と答えさせていたくださいね。そうして【浄土真宗を私の宗教とし、そのみ教えを喜んでいく姿】が、次の世代の方々に浄土真宗の魅力が伝わるご縁となっていく事と味わせて頂きます。





門徒総代研修会（三条組主管）

期日 二〇二三(令和五年)十月三日(火)～十月四日(水)

会場 湯田上温泉 ホテル小柳

テーマ 「家族礼拝のすすめ」

講師 山口教区 大津東組 浄土寺 荻隆宣さん

家族礼拝のすすめ

三条組 正覚寺衆徒 大溪 太郎

今回の研修会に向けて、山之内組長を中心としておよそ一年前から準備が進められました。開催にあたっては、昨年まで新型コロナウイルス感染症にともなう一日開催が続いていたことから、今回は宿泊と懇親会を設けたいという教区門徒総代会からの強い要望がありました。久しぶりの二日間開催が実現し、参加者においては大いに親睦を深められたことと思います。ご参加くださった皆様に御礼申しあげます。

ご講師・荻隆宣さんがご紹介くださった「とっておきの話」の一つは、ご自身の姪御さんのお話でした。幼いときに母親を突然亡くした姪御さんに対して、その後育ての親となった祖父母は、いただいた物は必ず仏様にお供えするようにと教え続けました。家族礼拝のきっかけとなるのは、なにか難しいことではなく、「ありがとう」の気持ちを礼拝という形で表すはたらきかけであったことがうかがえました。

また、ご講師はお寺を借りたことも食堂の活動を運営されており、その経験から、『歎異抄』の「一切の有情はみなもつて世々生々の父母兄弟なり」の言葉を引きながら、家庭の再定義・再構築を提案されました。様々な参加者がいるため、礼拝を促したりはできないものの、お夕事の間は箸を置くといったルールが設けられているとのことでした。仏様からのおすそわけを共に食べることも仏縁であり、そのような仏縁によってつながっている者同士は「みんな家族」と言えるのではないかと、またそうした仏縁のつながりが一人一人の感情を受け止める場所を作っているとお話でした。

家族礼拝をすすめる私ができるような思いで手を合わせているのか、まずはそれが問われていると感じる研修会でした。

仏教青年連盟第一ブロック研修会

日 時 二〇二三(令和五年)九月三十日(土) 十三時三十分～二十一時

会場 三条組 福勝寺・株式会社マグネット・藤次郎オープンファクトリー

懇親会 岩室温泉ゆもとや

テーマ 「新潟県の魅力を体験しよう」

講師 仏教青年連盟中央指導講師 伊藤 教恵さん

第一ブロック仏教青年連盟研修会を終えて

新潟教区仏教青年連盟委員長 皆川 賢太郎

去る九月三十日に第一ブロック仏教青年連盟研修会が新潟教区担当で開催されました。株式会社マグネットでティースプーン作りの体験を行い、藤次郎オープンファクトリーで見学を行いました。その後、ご講師の伊藤さんから研修のまとめの話をさせていただきました。岩室温泉ゆもとやで宿泊を兼ねての懇親会を開きました。



マグネットでのティースプーン作り体験では、制作過程を聞いた後に、実際に行う磨き等の制作に入りました。制作する際には、お互いに話をしながらどのような磨きで仕上げようと話をしながら制作し、完成したティースプーンをお互いに見ながら話をしている姿がとても印象的でした。また、藤次郎では、藤次郎の沿革をお聞きした後に、オープンファクトリーの見学を行いました。そして、最後にショールームにおいて藤次郎で制作されている多数の包丁などを見学しました。ご講師の伊藤さんのまとめの話では、他県にはないそれぞれの県の魅力や地元では当たり前すぎて気づけない地元の魅力を見つけて、各教区の仏教活動に生かしていただきたいとお話をいただきました。

最後に、この第一ブロック研修会にご多用のなかご出席いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。また、開閉会式の会場をお貸しいただいた福勝寺様、研修や懇親会に協力いただいた各企業様には重ねて御礼申し上げます。

仏教青年連盟では、青年世代を中心に活動を行なってまいります。会員は随時募集中ですので、興味や関心がある方や詳しい話を聞きたい方は新潟教区教務所までお問い合わせください。



寺院巡り

与板組 蓮正寺

れんしょう

住所 長岡市与板町与板甲四五五
電話 〇二五八一四一―五一一五

蓮正寺は常陸の国蓮正寺村（現茨城県）から信州長沼村（現長野市長沼地区）へ移住した後、永祿四年（一五六二）、川中島の戦を避けて、直江家を頼りこの越後国与板へ移ってまいりました。山号の「長沼山」は信州長沼村から由縁しております。

この寺で特筆するところは、良寛さまとの関係の深さであります。

当寺の第九住職真教の妻スセは割元庄屋新木家十代当主勝富の娘であり、良寛さまの父以南の妹であります。従って、良寛さまにとつてこの寺は叔母あるいは従弟の寺にあたります。また、良寛さまと親交のあった山田杜皐の住む和泉屋山田家（当寺門徒）も、当寺のすぐ向かい側にあつたことから与板に来た際はよく訪れたと言われております。

こうした背景に、当寺には「瓢水指」（長岡市指定文化財）、木額「淡交斎」（長岡市指定文化財）、「白衣袈裟」、橘屋五人衆の「貼交屏風」など良寛さまの遺品が多く残されております。

特に「瓢水指」は良寛さまが瓢箪に漆で俳句を書いたもので当寺伝来の貴重な遺品となっております。

当時、内陣の普請をしていた際、漆職人が使用していた漆を拝借して書かれた俳句と言われております。そして、この俳句の内容が少々穏やかではありません。：。「わがこひ(恋)は ふくべで どぢやう(泥鰌)を おすごとし」。禅の奥義を歌にしたものか、恋の歌なのか、単なる酔狂の歌なのか。意味深々であります。良寛書の三珍品と言われる方もおられます。つまり、一つは鍋蓋に書いた「心月輪」、二つには風書いた「天上大風」、そして三つには瓢箪に書いたこの俳句ということでしょうか。

現在、アフターコロナを迎え、県内外の多くの方々が見学にいられております。



教務所・別院からのお知らせ(会場記載がないものは新潟別院で行います)
二〇二三(令和五)年度 十二月～三月行事予定

▽除夜会
日時 十二月三十一日 二十三時～

▽元旦会
日時 一月一日 七時～

▽新しい領解文学習会
日時 二月六日 十四時～

▽連研履修者研修会
期日 二月二十三日

講師 滋賀教区 彦根組 純正寺 漢見 覚恵さん

▽第三十九回仏教壮年会連盟研修大会(新潟組主催)

期日 三月十五日

会場 未定

講師 武蔵野大学名誉教授 ケネス田中さん

お悔み 生前のご功労を偲び、謹んでお悔やみ申しあげます。

▼九月二十一日 新潟組 浄明寺前坊守 藤井 田鶴さん(八十九歳)

▼十月十六日 長岡組 善行寺前坊守 渋谷 麗子さん(八十六歳)

得度

▼九月十五日 元上組 圓光寺 長尾 智仁さん(釋仁智)

広報部会では教区報とホームページについての「意見・感想」を募集しています。「意見・感想等ある方は新潟教区教務所へ電話やメール等にてご連絡ください。よろしく願います。」